



猛暑の尾根歩きにはご注意！

湯檜曾川 東黒沢～ウツボキ沢右俣

國田

【日時】 2010年9月4日(土)～9月5日(日)

【メンバー】 L坂村、佐貫、國田

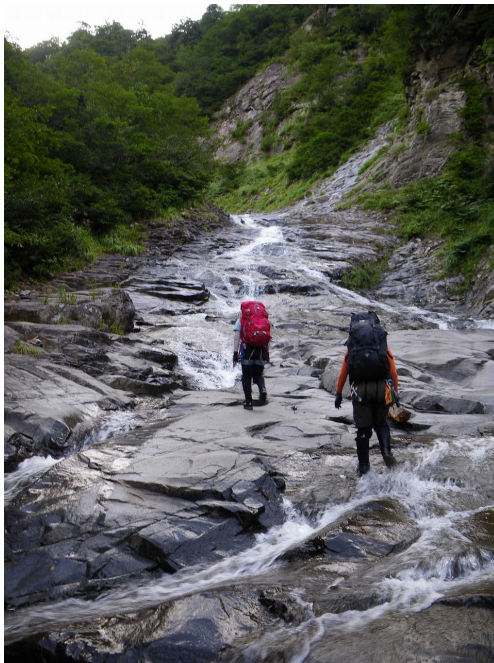
9/4 朝、土合橋の駐車場はいつになく満杯であった。白毛門への登山道からすぐに東黒沢が横切っているが、先に堤が見えたので沢の右岸に付いている道から入る。入渓し、程なく目の前にハナゲの滝は現れた。巨大なナメ滝だ。朝一なので高度感に少々尻込みしてしまう。先を行く坂村さんは、堂々とした登りだ。この滝を流行りのキャニオニングでは滑り下るようだ。下部に深い釜があるわけでもなく、危険ではないのだろうかと思いつつ登る。その後は、ナメ状の沢床をテクテクと進むこととなる。スパッと平らながら、鋭角に切れ込みが入っており、雄々しい様子でなんとも美しいナメが連続する。やっぱり人気の沢だけのことはある、と実感。快晴の中、今日は絶好の沢日和だ。この沢には、程良い高さの滝も所々出てきて、なかなか楽しませてくれる。そんな滝も、坂村さんは素早くルートファインディングして、サクサクと登ってしまう。佐貫さんは、後方から写真を撮ってくれていた。沢の真ん中に居座っている大きな岩を右の端から登り、暫く行くと尾根の乗っ越し地点となる。それ程急でもなく、踏み跡がしっかりついていて迷うことはない。あとは、沢を下降し幕営地を探すだけなのだが、実は途中で6～7人の先行パーティにも出逢っており、その他に何パーティ入っているか見当もつかない。人気の沢でテン場もほとんど広河原と決まっておき、このまま行くと、他のパーティと近い所に幕営することになったり、薪が足りないことが予想出来た。という訳で、下降の途中でもしも良い場所あれば、と思いながら下って行くと、絶好のテン場が現れた。沢から一段上にお庭の芝生のように整備された平らな台地があり、程良く薪も溜まっている。全員一致でこの場所への幕営を決定。ここからは、佐貫さんの的確な指示により、ツェルトとタープを完璧に張ることが出来た。薪を集めている途中で、まだ新しいガスカートリッジが見つかった。やはり、皆考えることは同じで、ここも今迄にテン場にしたい人が多いのだろう。日も高いうちから、焚き火の前でのんびりと酒宴を囲んでいると、目の前の沢を男女4人パーティが行き、次に男性1人パーティが「いいですねー」と言いながら通り過ぎて行った。大満足の宴を終え、明日の行程も長いので、早めに就寝。

9/5 沢を下っていくと、広河原までの距離は殆どないことが分かった。二俣からウツボキ沢となる。暫し河原を歩き、その後の15m滝は直登不可なので、高巻くこととなり大満足。私にとって、高巻きのない沢は物足りない。少し行くと二俣となり、右俣へ進む。連続する小滝は直登可能だが、その後の6m滝は、スタンスが遠い個所があつて私には届かず、ロープを出してもらった。その後、この辺の山城にありそうな乾いたスラブ帯を登っていく。最後の尾根歩きが長いことは分かっていたので、源頭部でたっぷり3L水を

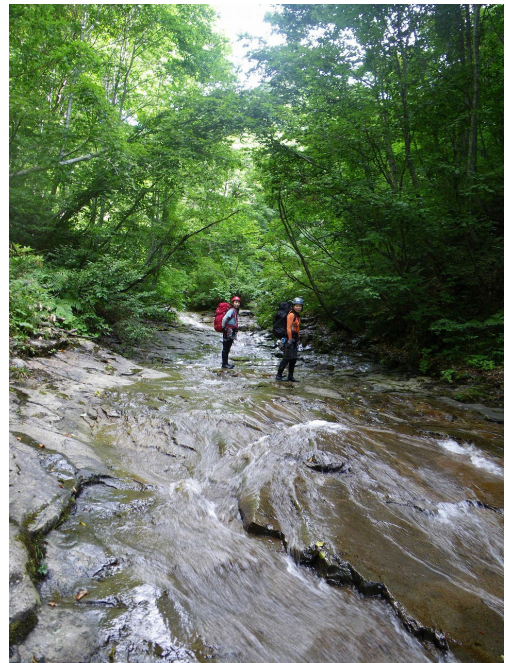


汲むと、ツメはなかなか手強い藪コギだった。草付きで足を滑らせ、スパイクを履いているうちに、佐貫さんがトップを行ってくれた。ハアハア言いながら必死に付いて行くと、目の前が開けた。はるか上方にハイカーが行く姿が見え、そこが登山道だと分かったので、頑張っけて登りきる。途中から後方になった坂村さんを待つが、なかなかやっこない。その後、辿りついた坂村さんは、見るからに体力を消耗しており、どうやら藪コギ中に暑さにやられたようだ。すると、佐貫さんがザックからミカンを出して1個づつくれた。このミカンのなんと美味しかったこと。その後の、駐車場までの下山路は、思っ出だけで辛く、長い行程だった。沢中では始終トップを努めてくれた坂村さんは気の毒な程バテており、頻繁に休憩し水分を摂ったり、時には首筋に水を掛けたりしながら頑張っていたが、熱中症寸前だったかもしれない。今年の夏の尾根歩きは、危険極まりない。すれ違っうハイカーの数が多いので、尾根を下るだけでなく、登っているので熱中症にならないのかと心配した。

女子だけで泊まりの沢に行くことは初めての為、それだけでワクワクしていた。終わってみると、なんとも言えない充実感で、思っ出深い山行となった。



ハナゲの滝(上部)を往く



東黒沢のナメはとっても綺麗!

【行程】 9/4 登山道口駐車場(7:10)～ハナゲの滝(7:45)～P1080(9:41)～幕場(11:34)
9/5 幕場(6:05)～P1450(7:36)～P1510(8:07)～登山道(10:50、11:10)～笠が岳(11:50)～登山道口駐車場(15:35)

【地図】 茂倉岳、水上